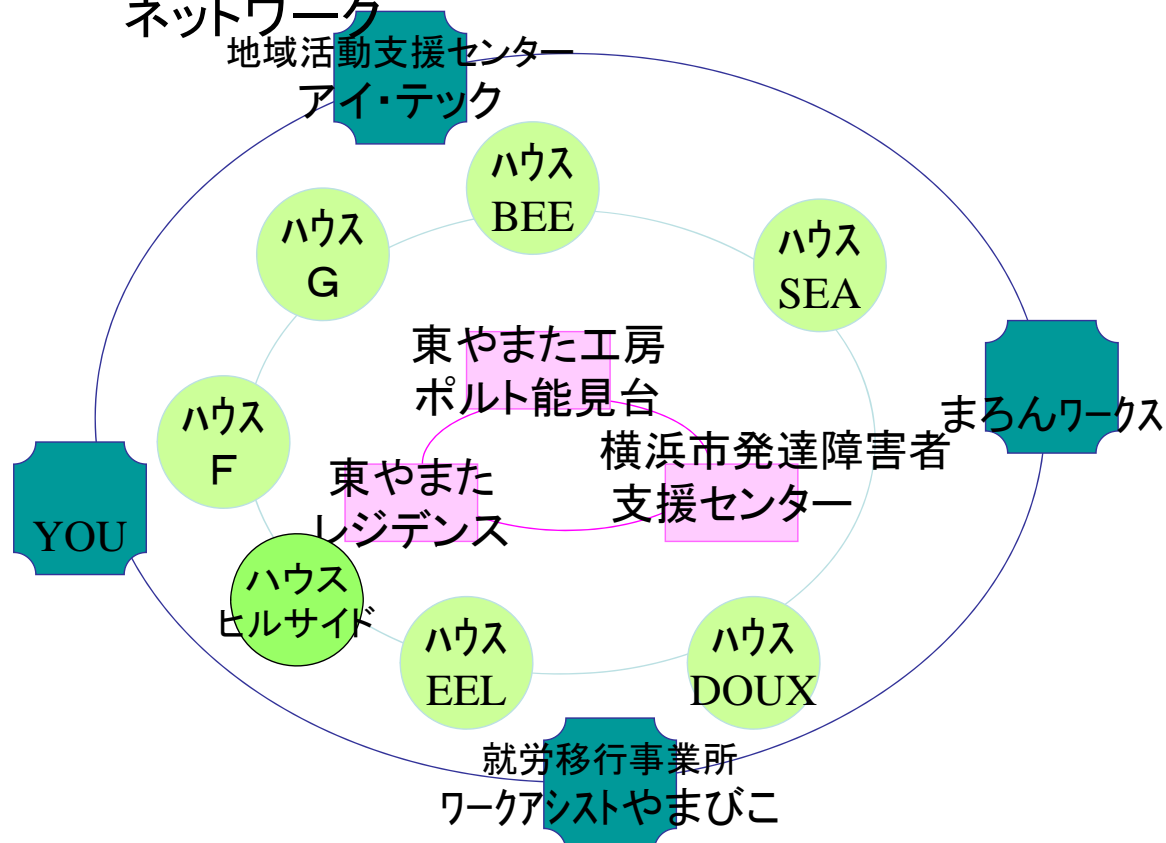


講義① 自閉症・発達障害の理解と対応

東やまた工房/東やまたレジデンス 施設長

関水 実

横浜やまびこの里の
ネットワーク



自閉症の障害特性を理解して配慮する

- 自閉症という障害を理解して
- それを「開いたり、砕いたり」するのではなく、障害として認めて配慮する。
- 自閉症の障害とは、「症候群」だが……

意味理解の弱さ

3

自閉症は「意味理解」の障害

- 意味理解が弱いと……（障害特性の理解）
 - 集団が苦手
 - 言葉が苦手
- 障害に配慮するのだから
 - 集団の中でも、個別的に、
 - 言葉に頼りすぎずに、視覚的に

4

二極化する相談ニーズ

- 1) 知的障害をともなうカナータイプ自閉症
の家庭・通所先での不適応(行動障害)
- 2) 高機能・アスペルガー自閉症の
社会的不適応
(非社会的・反社会的)

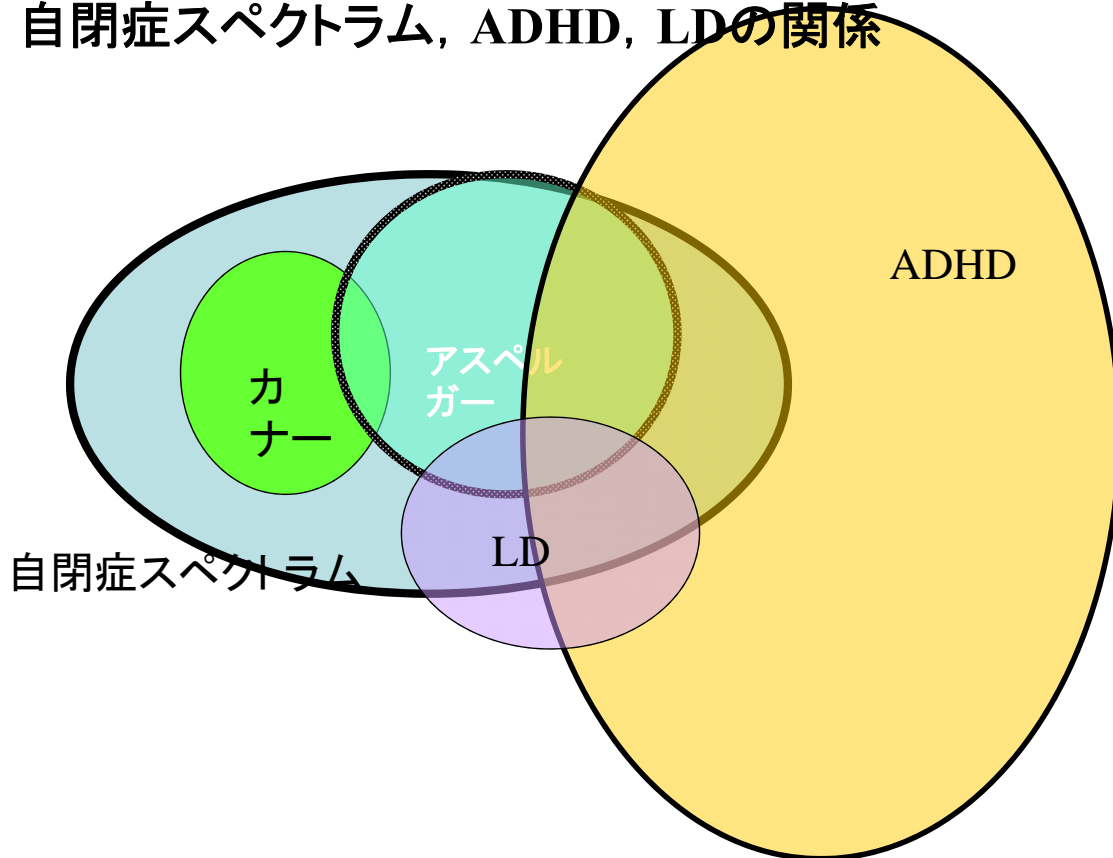
5

自閉症の障害概念の拡大

- 1943年 アメリカ
レオ・カナー 「早期幼児自閉症」
- 1944年 オーストリア
ハンス・アスペルガー
「子どもの自閉性精神病質」
- 1981年 イギリス
ローナ・ウイング
「アスペルガー症候群臨床知見」
アメリカ
マリアン・K・デマイアー
「高機能自閉症」
- 1998年 自閉症スペクトラム (広汎性発達障害)

6

自閉症スペクトラム, ADHD, LDの関係



7

自閉症の3つ組みとアスペルガー症候群

第1 相互的社会的関係における障害。

- 視線が合わない。友達関係を発展させにくい。興味を分かち合えないなど。

• 第2 コミュニケーションにおける障害。

- 言葉によるコミュニケーションの不得意さと、身振り手振りによるコミュニケーションの不得意さの双方が含まれる。

• 第3 想像力の範囲が狭く深いという障害。

- その結果として、変化への抵抗や、さまざまな繰り返し行動を好むという特徴。

アスペルガー症候群

- 自閉症の3つ組の特徴はありながらも言葉の数の遅れがないもの。

8

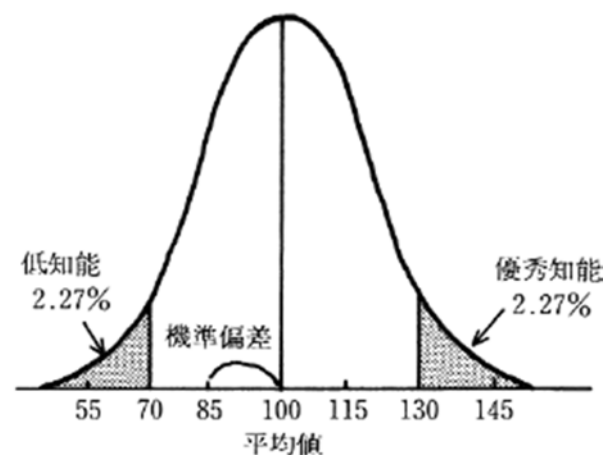
ADHDとアスペルガー症候群

- ADHDとアスペルガー症候群は、障害の категорияが違う。categoryが違うから重複する。
- ADHDは、
 - 体、刺激の選択性、成熟、衝動性。
 - 脳の熟成、刺激の選択性の弱さ、・・・。
 - しかし、精神・思考への影響は少ない。
- 自閉症スペクトラムは、脳の活動部位の違い、思考回路の違い。

9

発達障害と知的境界線

- 知的障害がない。IQ70以上の人たち、知的ボーダーラインから正常域の人たちが発達障害として注目される。
- 知的ボーダーラインの問題との混在に要注意。



10

自閉症とアスペルガーの親たちの 相違はなぜおこるか？

- 自閉症は精神遅滞を有する人の群から、
自閉症という異質の一群を峻別した。
遅れの中での質的違い。
- アスペルガー症候群は、正常知能の人の群
に、自閉症の三つ組みの特徴を有する人た
ちが少なからずいることを明らかにした。
正常知能の中での質的違い。

11

対応の基本

高機能自閉症・アスペルガー症候群
も自閉症スペクトラム(連続体)
自閉症としての対応が基本になる。

12

高機能・アスペルガー症候群

VS 知的障害を伴う自閉症？

- 高機能自閉症・アスペルガーの人たちの世界をよく知ることが知的障害を伴う自閉症を知ることに通じる。ですから、知的障害の自閉症に対応する人ほど、高機能の人たちと付き合う必要がある。
- 重度な知的障害を伴う自閉症への対応を通じて自閉症の障害特性とそれに配慮したシンプルな対応を知ることが、高機能自閉症・アスペルガー症候群の人へのゆるぎない対応を可能にする。
- 一次方程式が分からなければ、高次方程式は解けない。

13

当事者からのことば

「言葉を映像で理解した。映像にできない言葉はととても理解しにくい」

「自閉症の人は、時間と空間の中に自分を位置づけることがとても難しい。」

14

見通しがもてない混乱

- 何をすればよいのかをわかりやすく伝える。

構造化

15

構造化とは わかりやすくすること

注意が散乱しやすい
コミュニケーションの障害（言語的・非言語的）
視覚認知は比較的良好



1. 目で見てわかるように伝える
2. やるべきことの手順を明確にして習慣化する
3. 刺激を整理して、注意が散乱しないようにする
4. 見通しを持たせる
(いやなことがいつ終わかなど)

16

構造化と視覚化

- 空間の構造化
- 時間の構造化
- 作業・学習の構造化
- 視覚化

17

得意なことを活かして、
不得意なことはサポートする

知的に高ければ高いほど、不得意な
ことを克服することを要求される。

18

学齡後期の引きこもりの背景に、妙に熱心で、勉強しない先生の存在。

19

得意なこと

- 具体的なものを理解すること
- 視覚的に情報を処理すること
- 過去の記憶でできていること
- 自分の興味関心があるものを取り扱うこと
- 短い言葉かけを理解すること
- 自分の意見を行動で表現すること
- 見通しのもてる活動に参加すること

20

苦手なこと

- 抽象的なものを理解すること
- 聴覚的に情報を理解すること
- 未来や相手のことを予測すること
- 自分の興味関心がないものを取り入れること
- 長い言葉かけを理解すること
- 自分の意見を言葉で表現すること
- 創造性や変更を求められる活動に参加すること

21

ストレスの原因になること

- 大きすぎる音、雑音、騒音
- 多すぎる話しかけ、会話、質問、指示
- 自発的に行う活動
- 散らかった環境、視覚的乱雑さ
- 多すぎる人、広すぎるスペース
- 多すぎる要求

22

混乱を招く対応、不快な刺激

- 過度の身体接触や大声による指導
- 急な予定の変更や突然の中止
- 間違いの途中で改めようとする
 - 「ミスをしないような活動」の設定
 - 「正しい活動を経験してもらう」
- 集団の中にいるストレス

23

自閉症はシングル・フォーカス

- 同時に2つ以上ことはできない
- 途中での予定の変更や微修正も混乱のもと
- マルチタスクとシングルタスク
 - 昔のパソコンと同じ、いったん終了しなければ途中で仕事は切り替えられない。
- いやな記憶はなかなか消えない
 - よい形で終わらせてあげることが大事

24

トップダウンアプローチ

障害をもったまま地域で暮らす方法

- ・ ボトムアップ・アプローチから
トップダウン・アプローチへの転換
- ・ やれないことをやれるようにして地域に出る
のではなく、限られた能力のまま地域で暮
らすための工夫

高機能群サポートのトップダウン的発想とは

- ADHDの女性の洗濯場の改造。
- 職場で現場を貫く職業選択＝部下を持たない。
- ジョブトレーニングよりは、ジョブマッチング

25

カナータイプの自閉症と アスペルガーの異同を知る

26

自閉症の思春期をどう捉える

- 思春期はだれでも混乱する時期
- 自閉症の思春期の背景にあるもの
 - 自分で広げた領域を自分でコントロールできない。
- 役割をもつことの大事さ
- 評価されることの大事さ

27

カナータイプの自閉症の思春期

- エネルギーの増大と行動様式の変化が一致しない。
- 自分で広げた領域を自分で構成できずに、問題行動が増大する。
- 本人のもっている興味への評価が下がり、思春期を乗り越える共有できる価値、評価をえられにくい。
- 性的な対象は必ずしも、異性に向かわずに、性的興奮を覚えた場所、物などに固着する場合がある。

28

アスペルガーの思春期の課題

- 平行遊び的な集団から、価値の共有を軸とする集団に進化する。
- 同学年の集団に入れなくなる分、家庭に退行する場合がある。
- 共通の趣味などで仲間関係を獲得し社会的参加の手がかりを得る場合がある。
- 性的興味を異性にもつが、「心の理論」の不十分さなどもあり一方的な対応になりやすい。
- 男子は、興味はある対処が分からず自信のなさに退行することがある。
- 女子は、異性の表面的な欲求を見抜けないことがある。

29

「発達障害」の発生率

アスペルガー症候群、高機能自閉症、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動症候群等を含めて高機能広汎性発達障害

小学校普通級の軽度発達障害の在籍率

6.3%

→この人たちにも自閉症児者と同様な個別の配慮が望ましい。

2002年10月 文部科学省

小学校普通級在籍者 15,000名調査の結果

30

幼児虐待の背景に発達障害がある

- 虐待を受けるの子の5、6割が発達障害

(杉山登志朗あいち小児保健医療総合センター)

- 虐待の背景

- ものすごい片思いを何年も続けている状態で母が育てている。
- 通じなさにいらだつての虐待がある。

31

広汎性発達障害の現状

- 幼児虐待
- 不登園、不登校
- 切れやすい子どもたち
- 落ちこぼれていく子どもたち
- いじめられ
- 場面緘黙症
- 学童期のうつ
- ひきこもり
- NEET
- 精神科疾患 2次障害

重ね着症候群

32

重ね着症候群の定義

- 衣笠隆之(広島市精神保健福祉センター)による。
 - ①広義には16才
 - ②知的障害はない。(IQ85以上)
 - ③種々の精神症状、行動障害を主訴に、初診。各症例がもつ表面にもつ臨床診断はさまざまである。(統合失調症、躁うつ病、摂食障害、神経症、パーソナリティ障害……)
 - ④背景には、高機能広汎性発達障害が存在する。
 - ⑤高い知能のため達成能力が高く、就学時代は発達障害とみなされていない。
 - ⑥一部に、小児期に不登校や神経症などの既往があるが発達障害を疑われていない。

33

本人が語る「生活のしづらさ」 (学校)

- 履修届やレポートの提出日を忘れてしまう。
- 板書や先生のコメントをノートに取るのが難しく、試験範囲がわからないので、とにかく教科書を丸暗記して対応している。
- 授業中に先生から「質問はありますか」と聞かれ、授業の流れと全く関係ない質問をした。授業内容以外の質問をしてはいけないと知らなかった。
- 同級生の女の子から「食事に誘ってよ」と言われたので、デートに誘ったのに断われ、怒って怒鳴ってしまった。

34

本人が語る「生活のしづらさ」

(一人暮らし)

- 請求書をポストから取り出すのを忘れてしまう。
- 部屋が片付けられない。
- 寂しさと不安から携帯電話を3台持ち、一ヶ月の請求が10万を超えてしまった。
- 気がついたら寝食忘れてオンラインゲームをしていた。
- 水虫の手当てをせずに行ったら、悪化して歩けなくなり、入院することになった。
- 大家さんや階下の住人と上手く行かない。

35

本人が語る「生活のしづらさ」

(就労)

- 経理の仕事で、会計処理の不備を見つけ、上司に「修正しないと3年後にこうなります」と自分なりに危機感を伝えたつもりだったが、上司からは「余計なことを考えるな」と言われてしまった。
- 上司から「黙々と仕事してもらえたら大丈夫だよ」と言われ、「障害者だからって、黙って働けと言うことですか」と反論してしまった。
- お客さんが注文したような素振りをしていても、「すいません」と言われるまで気づけなかった。片手を挙げるのが、合図であることを知らなかった。
- 就職直後、周りの社員が毎日違う仕事を教えてくれた。新入社員だから嫌な仕事を押し付けられているのかと思っていた。社員教育の一環であるということを知らなかった。

36

高機能広汎性発達障害を持つ 子への対応の留意点

37

「高機能」に惑わされない。

38

当たり前すぎて伝えていないこ
とが分からない。

社会性全般を育てようと
思いすぎない。

クラブ活動は、水泳部、陸上部

無理のない関係性の中で
肯定感が育つ

41

高校の特進科は危ない

42

「高校時代が一番よかった。」

- 中学時代に強いいじめに遭う事例が多い。
- 高校時代に、身の丈にあった進路(サポート校を含む)に行くことで、落ち着く事例も多い。
- 高校時代が一番よい思い出がある。という当事者も多い。
 - 距離感のとれた関係。
 - 趣味のある仲間。
 - 穏やかな雰囲気。

集団が変わると課題がみえる

進路選択は、障害の自己認知を進めるプロセス。

親と子どもが障害の認知を進める中での進路選択。

親が幅広い価値観の中で本人と進路選択を行う。

どんな小さなことでもいいから役に立っていることを評価される。

**強迫症状は、
不安状況で強化される**

47

**学校での役割、家庭での家事
を与えることが大事**

48

発達障害と不登校

- 社会的引きこもりと呼ばれる中に、発達障害を背景に持つ群がいる。
- 心理的問題から引きこもる群に比して
 - 長期化しやすい。
 - 引きこもっている状態で安定してしまい葛藤が弱いように見える。
 - 学校環境の変化が明確でないと状況が変化しづらい。
 - 教室には入れる、入れないを視覚的、直感的に理解する。

49

発達障害児の不登校への対応

- 本人にとって、状況が大きく変わって苦手なことが強要されないことが明確に見える環境設定ができる。個別性の担保。
- 学校生活の流れが、視覚的に構造化されている。
- 電車クラブ、写真クラブ、パソコンなど、本人の興味を持つ世界を共有できる場がある。
- 特定の人存在が固定的な不安や拒否に通じている場合がある。
- クラスに戻そうとしすぎない。

50

カータイプとアスペルガー

- カータイプは、自分の動きを伝えてあげればそれで整理がつく。
- アスペルガーは、外からの情報の取り方、受け止め方まで含めて整理をしていく必要がある。

アスペルガーは荒野を目指す。

物理的な構造化だけでは乗り越える。

人的構造も含めて必要になる

生活・仕事

家庭の中で役割をもつことの重要性

小児療育相談センターでの研究

– 厚生省佐々木班の研究から

- 自閉症就労群の背景調査
- 職業＝家事手伝い

53

目標 : 職業＝家事手伝い
積極的な3つの意味

- ① 職業生活への道筋
- ② 自己肯定感を持ち、思春期を乗り越える
- ③ お金の意味、労働の意味をしる。

54

働く子に育つ

- 家の中で役割が持てる。
 - 目標 家事手伝い
 - 役割がこなせる人
- 金銭的な感覚
 - 「金は天下のまわりもの」?
 - 労働対価としてお給料が払われる仕組みを理解する。
 - お小遣いが大人の期待したことへの成果であることを理解している。
- 好きなことを仕事に直結させるべきか
 - 一番好きなことは余暇活動として。
 - 我慢して仕事してお金をもらう。
 - 余暇を楽しみたいから働くという関連を創る。
 - お金を使って、楽しめることとリンクさせていくことで長く働ける。
- 感情をコントロールする方法をもっている。
 - ポケットの中でハンカチをクチャクチャする。
 - タオルにしみ込ませたアロマの匂いを嗅ぐことで安心できる。
 - 社会的に許される、受けとめる形に移行させる。

55

「心の理論」が未成熟だと

- 自分が楽しくないことでも他人が喜んだことに共感することは難しい。
- 自分の楽しいことはみんなも楽しいと思っているので自分の好きな話ばかりする。「あなたは楽しくても、他の人は楽しくないのよ。」と伝えても、なかなか分からない。
- 自分の枠組みの中だけに立ち、全体状況に身を置かないため、周りに理解してもらいにくく、周りも分かりにくい。

56

「自己意識」が希薄

- 高機能群の「自己意識」(他者に対して自分自身を意識するという意味での)が希薄である。
- 「恥ずかしい」という感情にとぼしく、自分のことを他人事のように話すのも、「自分を自分以外の人や物と異なるものとして注意する。」という仕組みを持たない。

57

調子を崩すとバラバラになりやすい

- 家族や周りが否定的な評価を与え続けると肯定的な自己評価ができない。
- 自閉症は他者との愛着関係が弱いため、自我、自己の形成の中心部分がもろい。
- 中心がもろいので調子を崩した時にバラバラになりやすい。

58

「自分なりの世界」と現実

- こだわりの世界「独り言」「好きな感覚」「常同的な行為」と現実対応を切り分けられる。
- 自分の世界を出してもよい時間、場所をわかりやすく設定する。
- 高機能群では、こだわりの世界での仲間、他者とつながっているという感覚。
- 知的レベルが重い群では、役に立っている評価。

59

統合教育ですり抜けやすい子

- 学力がある程度あると、結果だけつじつまを合わせ、自分流に避ける方法だけ学習してしまい、一緒に取り組むことを学習しない。
 - 個別対応場面なら、ちょっと我慢したらほめてもらえるのだが、統合教育でその設定が組めない場合がある。
- ※支援を受けて「一緒に取り組む」経験を積んでいる子は、後からも支援が受けやすい。
取り組む体験を積んでいない子は、後からも支援が受けにくい。

60

どの層の人たちをターゲットにしているのかを明確にする

- 「高・高機能」、「中・高機能」「低・高機能」の群をわけて検討する。
 - 知的レベルの水準の違いによる 社会資源、援助手法が変わる。

61

誤解度 = 独りよがり度

- アスペルガー症候群の人のいきづらさは、この、誤解度の強い弱いに左右される場合が多い。
- 背景として、特有の認知のゆがみや象徴機能障害、抽象的意味に対する言語機能の障害、思考機能の障害などがみられる。

母、「お帰りなさい。今日は寒かったね。」
本人、「寒いのは私のせいじゃない。」

62

知的レベルの違いに配慮した 援助が必要となる

・低・高機能： 知的障害～ボーダー

「療育手帳」を活用した支援

知的障害の社会資源の活用と障害特性への配慮

・中・高機能： 普通レベル

「精神保険の手帳」を使った援助

障害認知の困難＝障害に巻き込まれる人たち。

障害特性に配慮した構造化・視覚化・個別化が必要

・高・高機能： 知的に高いレベル

一般の就労でのつまずき。従来の知的障害者をベースとした社会援助サービスの概念が通じにくい。

障害の自己認知による適応。2次障害の予防

63

講義②

発達障害を持つ人への支援の実際

64

成人期発達障害者の現況

- 就労の困難、就労維持の困難
- 非社会的状況(引きこもり等)
- 反社会的行動

65

広汎性発達障害者の不適応の背景

想像力の障害が関与する部分が多い

- 過去の記憶に苦しむ(非社会的行動)
 - いじめられた体験を持つ(フラッシュバック)
 - 失敗体験が強く残る
 - 不安から社会生活を避ける
- 自分の理屈が崩せない(反社会行動)
 - 家族への固執的攻撃
 - ひとりよがりの理屈からの反社会的行為
 - 的確なヘルプサインを出せず援助を受けづらい

66

**事例：
家庭内で、両親、兄弟に暴力**

診断、服薬調整、社会保障の獲得による安定、一般枠での就労。

67

**本人、家族の安定が
就労への第一歩**

68

事例：特例子会社に就職、職場 の人間関係で混乱

継続的な面談による整理

69

働く場を整理することで安定

T大学を6年かかって、卒業。職場で暴力、就労支援による転職で安定。

70

発達障害で就労している人

- 対人関係は上手くないが、専門性を活かしたり、人間関係が中心でない業種で仕事をしている人は多い。
- 就労の継続の相談に来所する人の中には、自分の行動をフィードバックしづらい人が多いために、仕事場で自分が周りとの関係で不適切な行動をしていることを自覚的に意識することが難しい人が多い。

71

就労相談 発達障害の履歴3つのレベル

- 養護学校ルート サポート校の一部
最初から障害を意識して障害枠での就労を意図する。
- 在宅、引きこもり、
時間をかけて、診断や手帳の取得を経て就労活動へ。
- 大学、専門学校まで行って、就職段階で詰まり相談に来所する。

72

発達障害者のための作業所

- 特定非営利活動法人PDDサポートセンター
「グリーンフォレスト」の創設
 - グループホームへの人材派遣
 - オフィス・ウイングへの人材派遣
 - 自閉症セミナーへの開催
- オフィス・ウイング 運営開始2006. 4
 - 地域作業所の補助金による運営
 - パソコンによるテープ起こしが仕事の軸
 - 高機能自閉症・アスペルガーの人が対象
 - 横浜市発達障害者支援センターとの連携

73

オフィス・ウイングから 最初に就労した事例

74

ジョブトレーニングより、 ジョブマッチング

75

事例 本人にあった環境を提供することで通所可能に

主訴

引きこもり

小6から不登校。自宅ではパソコンをして過ごしている。

今後の進路

診断名 アスペルガー症候群

76

事例 長期の引きこもり生活

- 30代 男性 大学の文学部を12年かかり卒業するがその後も長期の引きこもり、家族が来談する。
- アスペルガー症候群と診断される。
- 現在 アパートで一人暮らし。

77

就労だけが、全てではない。

78

中学校時代から
痴漢を繰り返す例。

79

職場で強い指摘を受けると
警察で補導される事例。

80

場面緘黙症と診断され
カウンセリングの対象とされた例

81

高校時代の1日のバイトに失敗
し、就職活動をしない例

82

弟が重度自閉症で、
兄はその精神的負担のための
不適応とされていた事例

83

相談が成り立たない
ADHDが強い事例

84

自閉症児の母親でアスペルガーと 診断された人の感覚世界

- 30代後半 高機能自閉症児の親
- 息子が高機能自閉症と診断される課程で母親自身がアスペルガー症候群と診断される。

85

作業所通所上のトラブル

- アスペルガー 30代後半 男性
- 就労経験あるが、現在は作業所通所中、通行人に乱暴に対応する。

自分の論理を崩せない

ソーシャルストーリーの学習

86

自立支援へ関わり

- 情報を整理して視覚的に提供する
- できたことの継続的な評価
- 共感的な支援と明確な指示
- 定期的面談による生活の枠作り
- 放りっぱなしにしない。

講義③ 相談の方法、留意点

親はなぜ子の障害を 認知しづらいか①

- 知的障害や古典的な自閉症と違い、一見しわかる障害ではない。
- 家庭では目立たない。集団の中で目立つ。
- 彼らなりの成長を、心配をしながら見守っている。
- 勉強について行けると「普通級」が居場所だと親も学校も考えてしまい。勉強中心の判断になり、課題が先送りされる。

89

親はなぜ子の障害を 認知しづらいか②

- 将来はどうにかなると思っている。
 - 高校を卒業するころには…。
 - 大学には行かれそうだから…。
- 夫も同じタイプだが、仕事はできている。
- 心配だけど、具体的にどうすればよいかわからない。学校と相談しても答えが出ると思えない。
- せっかくここまで、普通級でやってきたのだから今さら障害だなんて。
- 親は心配だが本人は気にしていない。
- 両親の意見が一致しない。

90

親はなぜ子の障害を 認知しづらいか③

- 具体的に必要な教育、受けられる教育のイメージがない。
- この子達の将来像がみえない。
- 上の子や下の子の本格的な障害に比べたら、問題ない。
- 思春期は、扱いにくい時期なので、いつか収まる。
- 実は、既に相談や診断を受けているが明らかにしない。

91

親はなぜ子の障害を 認知しづらいか④

- 親の感度が弱い。
 - それどころではない。家庭状況
 - 親にも遅れや発達障害がある。
- 先生から遠回しに言われていることがわからない。
- 障害に対する差別感を持っている。
 - 重い障害に対するイメージが強く、うちの子は違う。
 - 自閉症の子を知っていて、「うちの子は自閉症じゃない。」

92

親はなぜ子の障害を 認知しづらいか⑤

- 本人の問題ではなく、担任の問題、クラス友達
の関わりなど、学校の側の問題と捉えて、
環境が変われば変わると思う。

発達障害の人で、親族に発達障害
をもつ人がいる率は、5割を超えて
いる。

親との協力関係を作る①

- やれていないことから入らない。やれていることを評価。
- その上で、苦手な部分はぼやかさない。
- 学校での適応を問題にしているのではなく、よりよいアプローチの道を考えていることを共感的に伝える。
- 苦手な部分をこのように対応してあげられる。
- 具体的に提供できる支援の中身と意味を明確に伝える。

95

親と協力関係を作る②

- 目標を伝える。 → 自己肯定感を育て、それが意欲に通じる。
- 新しい苦手さとしての発達障害を伝える。
 - 比喩的に言えば、「東大を出ていても、社会参加できにくい人がいる。」
 - 知的な問題がなくても、社会参加のコミュニケーションの難しさを持つ人がいることをつたえる。
- その人達の数之多さを伝える。6.5%
- 個別的は配慮を受けることで楽になる可能性を伝える。

96

親と協力関係を作る③

- 「みんなと比べて」という言葉は使わない。
- 学校側はボケと突っ込みの二役を作っておく。
- 親の逃げ場を用意する。
- 教師が個別的な配慮をする必要性を確信する。
- 親の不安に共感する。
- 一度に全てを進めようとしすぎない。
 - 場合によっては、一度戻って、他の家族と相談することをお勧めするなど。
- 目的が、学校側にあるのではなく。あくまで本人の意欲性を高めたり、安心感を高めたりすることであることを伝える。

97

親と協力関係を作る④

- 先生達が、普通中学の教育環境の彼らにとっての困難さをイメージする。
- 発達障害の人の特徴は、刺激が整理されたときに入りやすい。
- アスペルガーの人は、周りの刺激も含めて取り組み方を常時整理しておく必要がある。
- 本人へのアプローチは、実験的に先行しておく。

98

発達障害相談の勘どころ

99

本当の問題はどこか

- 本人は、仕事の適応のことで来所するが、それよりも、妻の暴力の方がよほど問題だったりする。
(確かに首は絞めているが、殺さないから大丈夫。)
- 6～7時間 子どもを正座させ、一方的に説教し続ける。

100

生育歴を丁寧に聞く。

- 執拗に生育歴に戻る。
- 生育歴の詳細に聴き取る中で、本人固有の困り感が得られたり、逆に、本人が困っていないで、周りが困っている状況等が確認できる。
- 生育歴に聴き取りよる、2次障害かどうかの確認が大事。
- 親が高齢だと、生育歴が曖昧だったり、聴取できなかったりする。(支援センターで3割弱)

101

気をつけないといけなところ①

- 「何もやる気がないです。」と言っている人が、本当にやる気がないのか、整理や対応ができないから、結論として言っているのか。の見極めに気をつけないといけない。
- 統合失調症や精神疾患の人や人格障害系の方は、相談で自分の思いを伝えたり、訴えてくる。
- それに比して、発達障害は、具体的な解決を求めてくる。
- 「実際に手続きがわからない。」というような分かりやすさが多い。

102

気をつけないといけないところ②

- 「困り感」が、本人にあるかどうか相談が成立するには、決定的だが、本人が本当に困っていないのか、SOSの手立てを身に付けていないで、その手立てを教えると相談にのってくるケースもあるので注意が必要。
- 相談スキルを持っていない場合、具体的に教えていく必要がある。

(具体的介入的な相談)

103

発達障害かの峻別が必須か

- 統合失調症、人格障害と診断される人の一部に、「俺が、俺が。」という感じで主張・要求が強い人がいる。
- 今の本人の状況が色々でも、全て人のせいで自分は関係ない。支援者や、行政に対する要求が強く説明しても入らない。
- アスペルガーにもそういう側面があり、峻別が難しい。
- その場合、峻別が一義的なことではなく、発達か統合失調かなど診断を二者択一的にしてしまうのではなく、発達障害に精神疾患を重ね着することがある視点を大事に支援を考える。

104

心がけている配慮①

- こうした方がよいという方向性があっても、そこを先に出さないで、来談者の話を聞くようにしている。
- 先に出されてしまうと本当のところを言わなくなってしまって納得のプロセスが踏みづらくなる。そうすると同じところに引っかかる。
- 口では、「やっています。」と言うことが実際にやっているかを見ないとわからない。確認しないとわからない。

105

心がけている配慮②

- 本人はできていると思っているが、客観的にはできていないことが多い。
- 相談でもそうなので、「生活記録」をつけることで、本人も、相談者も客観視できる
- 話だけでなく、プリントなどを使いながら、実際に目に見て、耳に聞いて、進める。
- 本人の口から出ていることが、本人の言葉なのかの確認、家族の希望のオーム返しで、本人としては望んでないニーズだったりして、途中で、ギャップが出てくる例がある。
- 裏のとれている情報を基に支援する。

106

相談だけでは解決しない

- 相談だけでは本当の本人は見てこない。
- 一緒に行動、観察、確認する。
- 一緒に手続き、同行してみてもわかることが多い。
- 知的に問題がない人ほど、面談でできる部分はあるが、言葉に惑わされていけない部分が多くなる。
- 面談だけで押さえていくのは危険。

107

ゴールだけを見ている

- 今いる位置がわからないで、ゴールだけ見てている場合の人が多い。
- 何でも一歩一歩だと話すようにしている。
- その場合、一歩一歩のあゆみの道筋を具体的に示すことがポイントになる。

108

発達障害の人の身体化症状

- お腹が痛いなどの身体化症状、手段がなくて選んでいることが多い。
- まずいのは、自虐的にやっていると判断し、一般の自傷と同様のとらえ方をしてしまう対応。
- 自傷、「なぜそれをやってしまうの。」と問い詰める人は一番まずい。
- 自閉圏に対しては、やらなくてすむ時間を作ってあげることが必要。

109

経験が蓄積になりにくい

- 実際の就労に結びつかない理由は、経験不足、イメージ不足、段取りがわからない。
- 発達障害のない人は、経験があれば蓄積が可能だが、発達障害の人は経験が活かされにくい。
- 一般の知的障害の人の場合、アルバイトが自己評価を知る結果にもなっている高機能群でアルバイトいっぱいやっているが、それが適性の理解に繋がっていない。

110

最後に

- 介入型のケースワークの必要性。
- ケースワーカーにとどまらず、ソーシャルワーカーに。